

学校だより 「'10まかべ」

第29号

2010(平成22)年12月2日

糸満市立真壁小学校

第3回目の校内授業研究会を実施しました。教科は道徳で、授業者は3年1組の宮城実子教諭。主題は「礼儀の大切さ」です。授業者はねらいを、「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心を持って接する態度を育てる」(指導案より)としています。

授業づくりの鍵は、「本時で身に付けさせたい基礎・基本を明確にする」「身に付けさせる工夫を明確にする」「評価する」です。この3つの視点から、授業の様子をお知らせします。



上写真は、リサさんとひそひそ話をする役に前に出てもらって、演技をしている場面です。実際に役になることで、ひそひそ話をする側とされる側の気持ちを実感できることをねらっています。

左写真は、リサさんの気持ちについての発言の板書です。



11月17日(水) 5校時 第3回校内授業研究会 3年1組 道徳

ひそひそ話は、仲間はすれにされているような気にさせる...

本時で身に付けさせたい基礎・基本…「だれに対しても真心を持って接しようとする」

■基礎・基本を身に付けさせる工夫を探る

工夫1…問題提示において、お母さんのすすめで髪を切ったリサさんが、翌日の教室でみんなのひそひそ話に遭遇する「いやなかんじ」という紙芝居をみせた。紙芝居の概要は左図の①から⑥である。その紙芝居を読み聞かせた後で、次の展開になっていく。

教師(T)の発問と児童(C)の応答

(1) 教室に入る前のリサさんの気持ちを考えさせる。

T1「髪を切ったリサさんは、どんな気持ちですか？」

C1「恥ずかしい気持ち」

C2「笑われないかな？」

C3「いやだな、という気持ち」

(2) 教室に入ってからのリサさんの気持ちを考えさせる。

T2「教室の中は、どんな様子に見えたのでしょうか？」

C4「似合わないのかな？」

C5「自分の髪のことを話しているのかな？」

C6「みんなで文句を言っているのかな？」

【学習後の感想】

■A子…ひそひそ話はしないで、はっきり言った方がいいと思います。

■B子…私はずっと前に友だちにひそひそ話をされたことがあります。その時はこわくて、ずっとだまっていました。同じ話だったので、気持ちが分かる気がしました。ひそひそ話は、される方もいやだし、する方もいやだと思います。

■C男…いいことを話していたけど、相手には内容が分からないので、自分のことを言っているように思うので、ひそひそ話はしない方がいいです。

工夫2…展開において、役割演技を取り入れることにより(上写真)、工夫1で話し合ったリサさんの気持ちや、ひそひそ話をした学級の人たちの気持ちを実感させる。そのことにより、髪を切ったリサさんに、自分たちがどのように接すればよいかを考えさせていった。

↓ 役割演技を終えた後の、教師(T)の発問と児童(C)の応答

T1「役割演技をしてみて、リサさんはどんな気持ちでしたか？」

C1「ひそひそ話をみると、やっぱり笑われているようで切らなければ良かったと思った」

C2「ひそひそ話は、自分のことを言っているように思った。」

T2「ひそひそ話はどんなところがいけないですか？」

C3「文句を言われているみたいに思うところ」

C4「やっている自分もいやだし、教室の中がへんな雰囲気になる。」

C5「人を笑っているようにみえる。」

C6「話の中身が分からないからいやらしい。」

C7「相手に聞こえないから、文句でなくても文句に思える。」

…

T3「学習をして、自分が感じたこと、考えたことをカードに書いてください。」

■ 評価 ひそひそ話は、日常生活の中で起こりがちなものである。やる側は、内容が良い場合には、やられる側の疑心暗鬼に気付かないものだと思う。しかし、やられる側にとっては、自分のことを悪く言っているようでいやな気持ちになる。そのような一般的な気づきを、工夫1の「紙芝居」と「T1」「T2」の発問で明確に引き出している。

また、工夫2の役割演技で気持ちを実感したことが、A子・B子・C男の学習後の感想に結びついた、と言える。故に、本時の基礎基本を身に付けさせる工夫は、上手くいったと考えている。

